

編集後記

好奇心に支配されている私は、最先端の技術を試したいばかりに、この一年いろいろなものに手を出してきた。一番のヒットが、全世界対応SIMカードである。一枚のSIMカードでほとんどの国で使える。そこまでは、もはや普通の話で、ここからがすごい。私が目につけたのは、ある国のSIMカード。その内容は、その国のパケット使い放題+他国どこでも一ヶ月5ギガまで使えるというもの。そして、価格は日本円で3,500円。

現代では、経営を専門にしている私ですら、ちょっと現場から目を離したら、新しいイノベーションから置いてきぼりにされる。去年の編集後記には、デジタル・ガジェットの進歩がもたらす研究環境について書いた。iPadの進化やGlassesのパソコン化である。そうしたら、私の予想を遥かに上回る機能をもつVR Glassesの開発が佳境に差し掛かってきたとの情報も入っている。

しかし、全世界5ギガ使用可能+当該国パケット無制限+通話実質無制限（1ヶ月）で3,500円というインパクトに、私の好奇心のすべてを持っていかれた。このサービスがもたらす影響は計り知れない。もはや、日本の携帯電話会社で契約する人はいなくなる。たとえば、現在、日本の大手キャリアは、7ギガ+通話料無料で、7,500円ほど。そうすると、全世界SIMカードを他国で買い、日本および海外使用を5ギガとして、契約国で無制限、電話は050インターネット通話で済ませれば、日本の携帯電話会社の半額となる。経営に国境はないが、電波にも国境はない。東京テレメッセージがそうであったように、ある日突然、イノベーションは現れ、一瞬にしてすべてを変える。携帯電話会社は、NTTがそうであったように、近い将来には回線管理会社になると思われる。つまり、同形態事業であれば、サービスやプライスにも、国境がなくなるという時代が本格的に到来した。

さて、本誌に投稿いただきました著者の皆様に、編集責任者として感謝申し上げます。今後、私たちの研究も、デジタル・ガジェットの進化とソフトフェアの進歩、そして基幹インフラのイノベーションにより、ますますこの国にいても、コストを掛けずに効率的にできるようになると予想されます。こんなことを想像すると、来年はどんなデジタル環境で、どんな論文を掲載できるかも楽しみです。今年度で、編集責任者の任をおりますが、本誌国際経営フォーラムが長きに渡り発行され、発展していくことを切に願っています。

編集委員長 小島 大徳